

もう1学期もあと2週間になりました。皆さんがこれまでに書いてくれた感想シートは3kgを超えます。そのどれもが私にとって本当に大切な宝物です。皆さんにももっともっと紹介したかったし、お返事を書きたかった。せめて1週間に1回は出したかった。でも、テストの採点を終えて、今の私の体調を考えるとそれはもう無理だと思います。1学期最後の授業までにこれを出せたらと思って、早めに書き始めた次第です。

1学期を振り返って、皆さんとの授業を思い出すと、本当に楽しかった。5月ころはまだ体調はとても悪かったのです。また、職員室でつらいことがあったときもあります。その時に陰で声をかけて支えてくれる先生がおり救われました。そして、2階へあがって、数学の授業。教室で皆さんと授業をしていると、心が癒されました。心が穏やかになりました。そのくらい、皆さんとの授業は楽しかったです。

土居中での初めての授業は、5月1日、3年5組での授業でした。ドキドキしながら私は教室に入りました。とても楽しかったのを今でも覚えています。その後どのクラスも、温かく私を迎え入れてくれました。楽しく、笑いのあふれる中での授業。そして授業の終わった後、一人一人の感想シートを読みながら、本当にうれしかったのを覚えています。「楽しかった。」「よくわかった。」という感想。ひとつひとつがうれしかった。

5組。思い起こすと、いろんな授業が自然に盛り上がっていたなあ。いつも雰囲気よかった。ルート20万の近似値を考えたときにも、教卓の周りに集まってきて歓声を上げてくれたなあ(500円のマジック)。まるでスターにでもなったかのような気分でした。

4組。6月の最初の月曜日の朝、直前にとっても心乱れる出来事があったまま、私は教室へ上がったのです。心はまだ動揺していました。でもあの時の4組の温かいやさしい雰囲気は今でも忘れません。次第に私は落ち着い

て行きました。あの時授業をしながら私は心の中でみんなに「ありがとう」と言ったんですよ。

そういえば、つい先日の朝もそんな状態でした。その日は一時間目は5組、2時間目は3組でした。その時、私はみんなの明るさにどんなに救われたことでしょう。

3組は、班編成の終わった後の出会いだったね。1番たくさんおつき合いできたね。最初の授業での感想：「あっと言う間1時間が終わりました。」という声に凝縮されているように、いつもエネルギーがあって、私のリズムとぴったりシンクロしてくれましたね。私の下手な手品にもいつも感動(←私が)的に反応してくれて、私は一流マジシャンになったような気持ちになったものです。

2組。個性の中にも集中あり。

初めはちょっと硬かったけれど、集中力はいつも抜群でした。そんな2組がいつからか変わったなあという気がします。いろんな人の個性がユニークに現れてきて楽しかったよ。私の目の前で紙相撲を突然始める猛者もいたりして、笑ったなあ。それとすごいパワー。三連スパイダーマンTKシールを連発したのも2組でした。

1組。実は1組にはとても魅力的なつぶやきがあります。1組は時間割の都合で、4クラスの中で最初に新しいところに進むことが多かったんです。私は一生懸命準備していくんだけど、失敗することもありました。でもそういうとき、みんなが首をかしげて率直に「分からない」と私に言ってくれたよね。

その後私は、「この授業どうしたらよかったんだろう」と考え、新しい着想を得て次の授業をするということが多かった。1組で聞える「分からない」というつぶやきの声は、この意味で他の4クラスにも貢献してくれました。

皆さん。本当にありがとう。そして本当によく頑張りました。

みんなと歩んできたこの3ヶ月。見えない次元から与えられたこの出会いに感謝しつつ、そこにこめられた意味を考えてみたいと思います。

個人的な私の体験から、今回の話は始まります。私は2年前にうつ病で倒れました。何ヶ月も休んだ後復帰しましたが、自分が教壇に立つというイメージはその後もなかなか持てませんでした。「そのイメージが持てるまでは教壇に立つてはいけない」と主治医から念を押されていました。復帰はしても苦しさは続きます。そんな中で、私の授業の模索が続きました。

今振り返れば、断崖絶壁を歩んでいるような苦しい日々でした。でもいろいろの出会いがありました。仮説実験授業の板倉先生という方と出会うこともできました。それは衝撃でした。小学生たちは心の底から楽しんで授業を受けています。私もその仮説実験授業というのを受けてみましたが、これが本当におもしろいのです。これまで私が持っていた授業感は砕かれました。実は、毎回授業の最後に書いてもらってる感想シートというのは、仮説実験授業から学んだものです。ただ、仮説実験授業はおもに理科や社会に関するものが中心で、数学に関するものはまだあまり開発されていないのです。そのため、まだまだ授業のイメージは見えません。私の模索は続きます。

もう一つ、奇跡的な出会いがありました。私が病院へ行った帰りのことです。バスを待つ間本屋に立ち寄ったところ、たまたま私が大学時代に教えてもらった恩師が出された本を見つけました。すぐに買いました。もうずっと前に学んだことなので、有名な定理以外は忘れていました。でも、読んでみると面白かったのです。机の上に置いていつもぱらぱらとめくっていました。なんということでしょう。そうすると心が癒されるのです。

私は25年ぶりにその恩師に手紙を書いて、感動を伝えました。ある日ポストの中に

恩師からのハガキが入っていました。私はこのハガキをいつも肌身離さず持ち歩いては読み返しました。皆さんに紹介したいと思います。

拝復 お返事がたいへん遅くなりすみません。

河村君のことはまだちゃんと覚えています。もう「君」では失礼と思いますが、学生のときのイメージじゃないのでご勘弁下さい。拙著を読んで下さったということにかなり驚きました。一つにはあの本は大学生協などを除き、一般書店ではほとんど流通していないのに河村君の目に止まったということが希有なことですし、さらには、卒業後27年も経つのにあの本を「面白い」と感じられることです。また、私の当時のつたない講義にもかかわらず、興味を持って下さり、ノートを今に至るまで保存されていたことなど、教員冥利に尽きる話で、まことに有り難く思います。

拙著に今の言葉で言うと「癒し効果」まで感じられるというお話は、ご自分の青春時代への追憶の力が大きいとは思いますが、数学の純粋な世界というものが我々に与えてくれるものでもあるでしょう。数学の世界に憩い、現実のこの世界をうまく乗り切る力を得られたいへん結構なことと思います。

最後になりましたが、まだまだ長い将来を持つ河村君が、お元気に過ごされますようお祈り致します。

これを読んだとき私は改めて奇跡的な出会いだったのだと思いました。そして恩師が書いてくださった、「数学の純粋な世界というものが我々に与えてくれるもの（癒し）もあるでしょう。」という言葉が強く心に積み込みました。

うつ病というのは、興味・関心・意欲が全く起こらなくなってしまう病気です。動けなくなります。ベッドに横になったまま天井を見上げてじっとしているしかできなくなります。その時の心の中は焦げ付くように苦しいのです。テレビの映像や音楽さえもが苦しいのです。

ところが、数学や授業というものに、うつ病をさえも癒していく力がある。その中心的なキーワードは「興味・関心・意欲」である。

こうして、このことを発見した私の中で、授業に対するイメージが、新たに下りてくるようになりました。(続く)

前の数学の続きです。

初めての授業の時の皆さんの感想シートを読み返していると中にこういうのがありました。

「プリントはいつまでにしたらいいですか。」

ごめんなさい。お答えしてないままでしたね。あの頃は「できるときにしたらいいよ」でした。あえて宿題にはしませんでしたね。その理由を改めて今言います。それは、

「しんどさが先に来てはいけない」という気持ちがあったからです。「まず、授業に楽しいという思いを持ってほしい。」これが私の願いでした。そして、一旦《興味・関心・意欲》が動き出したら、そのときには宿題をやらされてやっているときよりもはるかに大きな力が働き始めるのです。

そのような力が少しでも働く種をまいてから徐々に宿題を出していけばよい、それが私の考えでした。

さて、前回に続き今回も、忘れられない出会いを皆さんにお話したいと思います。

それは今年の3月下旬。私が突発性難聴を発病して入院していた時のことです。その病棟の看護師に、私の教え子が二人いました。

一人はTさん。もう15年以上前の教え子でした。入院してから私はステロイド剤の点滴を毎日受け、その副作用からか異常発汗と体温調節異常に悩まされていました。なかなか眠れず、深夜トイレに行った時のことです。部屋に帰ってきてドアをあけようとしていると、「せんせー」という声が背中に聞こえました。ドクターのことを呼んでいるんだろうと思いました。ドアを開けながら右を見ると、Tさんが「先生ー」と呼んでくれているのでした。深夜の病室の巡回中のようなのでした。そして、Tさんは、「先生、おやすみ」とにっこり。その瞬間、何かとても暖かいものが私の中に流れ込んできて、私も「おやすみ。」 体は苦しかったけれど、その夜、心は穏やかでした。

もう一人は、Kさんです。実は病棟はちがうのだけれど、わざわざ私の部屋へ来てくれて、「先生、私Kです。」「おおー！Kさん。」そのとき、Kさんは「先生の授業分かりやすかった。センター試験で、数学99点だったんよ。先生のおかげじゃ。」とってくれました。忙しい中で、わざわざそのことを伝えに来てくれたのです。私は不思議な気持ちがありました。数学は中学校で教えただけなのに、「先生のおかげでセンター試験がよくできた」としてくれる。

それまでの苦しい闘病生活で、私の内に断片的に固まってきていた《授業のイメージ》が、この二人との出会いを通して、全体として一つにまとまっていったように思います。

退院するとき、ナースステーションへお礼のあいさつに行ったとき、左の方にTさんがいました。看護師さん方にお礼を伝えた後、「Tさん、ちょっと」とTさんを呼びました。どうしても伝えておきたいことがあったのです。

それは、あの夜のことでした。あの夜のことについて、私は心の底からお礼を言いたかったのです。

そこには、こういう思いもありました。「今伝えておかなければ、もう伝える機会はないかもしれない…。」

あの夜のことの感謝を伝えた後、私はTさんに言いました。「Tさん。中学校以来15年ぶりなんよねえ。」「先生、歳バレルやん。」「あ、ゴメンゴメン。じゃけどね、今回ワシ、こういうことで入院したけん会えたんよねえ。なんか、奇跡的やなあ。ということは、ワシがこれから元気だったら、また15年位は会わんわけやん。」

もしかしたら、もうずっと会うことはないかもしれない…。

そう考えると、ほんとうに神様が与えてくださった奇跡的な出会いだったような気がするのです。